令和７年度病害虫発生予察注意報第５号

令 和 ７ 年 ８ 月 １ 日
愛　　　知　　　県

作 物 名：ダイズ、野菜類、花き類、果樹類（ブドウ等）
病害虫名：ハスモンヨトウ

１　発生地域　　県内全域
２　発生程度　　やや多い
３　注意報発表の根拠
（１）県内各地に設置したフェロモントラップの直近１か月の総誘殺数が、複数地点において過去10年間と比較してやや多い(図)。
・西尾市（ダイズほ場）340頭（平年161頭、前年280頭）で、過去10年間と比較して２番目に多い。
・安城市（ダイズほ場）79頭（平年41頭、前年45頭）で、過去10年間と比較して２番目に多い。
・弥富市（ダイズほ場）418頭（平年227頭、前年186頭）で、過去10年間と比較して３番目に多い。
・碧南市（ニンジンほ場）435頭（平年231頭、前年348頭）で、過去10年間と比較して２番目に多い。
・長久手市（農総試内）167頭（平年87頭、前年68頭）で、過去10年間と比較して２番目に多い。
（２）７月31日名古屋地方気象台発表の１か月予報では、向こう１か月の気温は高いと予想されており、今後、本虫の発生に好適な天候が予想される。
（３）７月に実施した県内ほ場の巡回調査において、ダイズの白変葉やブドウへの卵塊の発生等を確認しており、例年よりも早い時期に発生が目立つ。

４　防除上注意すべき事項
（１）齢の進んだ幼虫には薬剤効果が低下するため、若齢幼虫のうちに対象作物に登録のある薬剤を選んで防除する。また一部のジアミド系殺虫剤に対し感受性の低下を確認しているため、薬剤選択は指導機関に相談する。
参考：農林水産省農薬登録情報提供システム（https://pesticide.maff.go.jp/）
（２）同系統の薬剤の連用は避け、異なる系統でのローテーション防除を徹底する。
（３）成虫の発生が多い状況が続いた場合、ほ場への飛来が続くことが予想される。
今後の予察情報を参考にするとともに、薬剤防除後もほ場での発生状況に注意する。
（４）卵塊や分散する前の若齢幼虫は見つけ次第捕殺する。
（５）本虫は寄主範囲が広く、ほ場周辺の雑草は増殖源になるため除去する。
（６）施設栽培では成虫の飛び込みに注意し、開口部を防虫ネットで被覆する。

５　連絡先
愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室
電話　０５６１－４１－９５１３

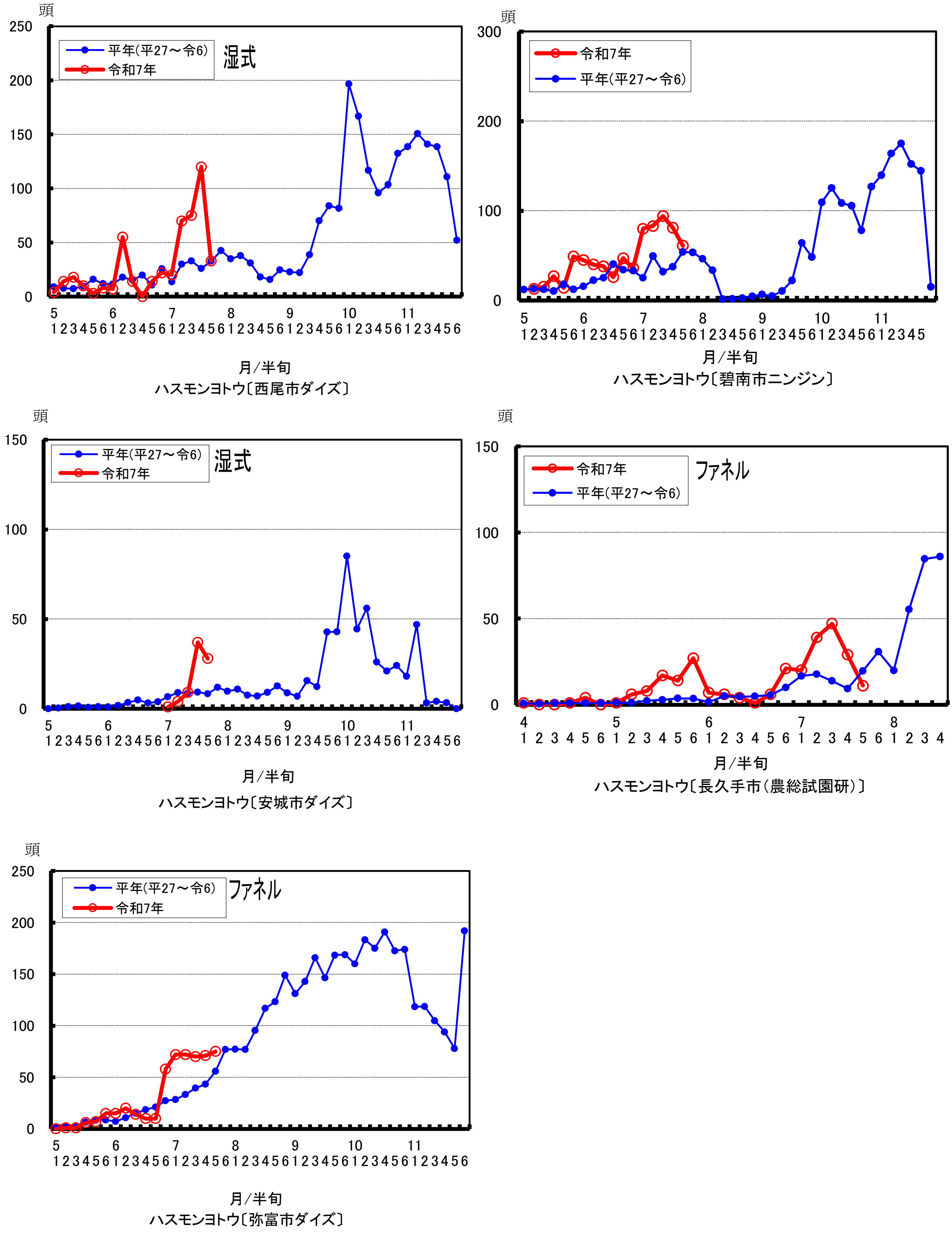

図　フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数